

☆定 年 退 官☆

◇第4部 永井芳男教授

本年3月末日をもって定年退官された。同教授は昭和5年東京大学工学部応用化学科を卒業後、保土谷ソーダ工業株式会社（現在の保土谷化学）に入社、同社退職後、大学院に入られ、昭和11年工学部講師、16年助教授となり、同17年第二工学部開設とともに同学部勤務となり、応用化学科有機合成化学の講座を担当、昭和19年教授となり、昭和24年生産技術研究所移行とともに第4部教授として今日に至っている。同教授は本学図書商議委員会委員および本所の図書、特審、出版、講演会の各委員会委員長として本所ならびに大学の行政面に尽され、また日本化学会副会長、有機合成化学協会々長、日本学術振興会116委員会主査、幹事、高分子学会編集委員長など学会の活動にも広く貢献された。

永井教授の研究面に関する活動は一貫して広く芳香族合成化学に関するものであり、特に多環芳香族化学の分野においては本邦はもちろん、世界的にもすぐれた研究成果を挙げられ、建築染料スレンブルウRSの世界最高収率の確立、IS環式のピオロングトロンの合成などユニークな研究をされ、その業績に対し本年度日本化学会賞を贈られている。

◇第4部 福田義民教授

本年3月末日をもって定年退官された。同教授は昭和3年東大工学部応用化学科を卒業後、大学院に進み、昭和6年工学部講師、昭和11年同助教授となり、化学工学を担当、昭和19年教授となり、昭和24年生産技術研究所移行とともに第4部教授となり今日に至った。同教授はまた工業化学会（現日本化学会）理事、化学工業協会評議員、大学院化学系委員、学部教育懇談会世話人その他数多くの委員会委員をつとめられ、大学の行政面、学会の活動にも貢献をされた。

同教授は当初固体燃料の研究に従事され、石炭、コークス等炭素質の反応性と構造の関係等を究明され、その後化学工学に転じてこの分野の草分けの一人となり、特に吸着についての研究では、活性炭等多孔性物質の構造、固体粒子内拡散現象の研究や吸着装置の設計等に創意ある研究をされている。

☆所 外 活 動☆

第1部 一色貞文教授は、社団法人日本非破壊検査協会の昭和41年度会長に就任した（昭和41年3月25日より1年間）

表紙	風路つき試験水槽で、小型貨物船模型に5.5m/sの風をあてて傾斜させたところ(本文1~6ページ参照)
----	--

研究解説

風路つき試験水槽の特性.....	田宮 真 渡 辺 幸 加 藤 正 夫	1 7
アイトソープ工業利用における最近の進歩.....		

研究速報

カオリン鉱物のカセイソーダ処理によるA型ゼオライトの生成(I).....	高橋 浩 西村 陽 一 西長 川 一雄 小 田 林 繁 美	13 16
Cu-Co合金の時効について.....	妹尾 学 金 子 雄 治 早 野 茂 夫 山 野 武 郎	19
電極反応を用いるメタクリル酸メチルの重合.....	尾上 守 夫 江 口 征 夫	21
水晶発振子が薄膜回路基盤を兼ねる超小型水晶発振器.....	藤井 陽 一 白 石 敏	23
ガスレーザ出力の安定化.....		

生研ニュース.....	表2・表3
-------------	-------